

●神矢樋門排水機テスト 19日(土)50人の皆さんがご来場

昨年10月には巨大台風があって、流れ橋が流れた。飯岡の久保田樋門の締め切りによって、内排水が貯まって、木津川の水位が下がるのを待たなければならず、国交省の移動ポンプ車がフル稼働した。江津でも精華町でも内排水が浸水を引き起こした。神矢樋門や名松樋門は地域の人々に国交省淀川河川事務所から樋門締め切りの連絡によって、本川からの流入が防止された。国交省所轄の樋門があちこちにあるが、そのうちの一つが神矢樋門である。近くに大川樋門もある。来る雨季に備えて排水機の排水テストが行われた。約4トンの水が汲み上げられ、排水される姿は一挙に大滝の出現となる。すごい景色が現れる。はげしい雨が降る時は排水能力を上回る時間帯は何度も経験している。説明するのは西部土地改良区の世話人をしている山下氏と仲間3人であった。21号のときは徹夜で頑張っておられました。こうして内排水による洪水被害を最小限に抑えるよう、頑張ってください。今年はお覧になれなかった皆さんは、来年のこの時期に開催されますので、一度は訪れてみてください。

●木津川希少種調査管理業務の契約が成立 16日

二年目になる木津川の希少種調査管理業務は作業をできるだけ早く実施しなければなりません。6月に近いころに契約が成立しては、春に刈り取らなければならない時期を失うのでと随分早くから、契約ができるよう強調してきました。しかし手続きに間違いが発生して、成立がこの時期になってしまいました。里山の会では契約がどうであれ、希少種の保全という観点から、自主的に希少種の生育する周辺などの観察を行い、必要と思われる場所の草刈りを小規模ながら手刈りなども含めて行ってきました。

イヌナズナやカワラサイコ、タヌキマメやマキエハギなどについては、注意深く手を加えてきました。特に計画から外されているレンリソウの生育が確認されている場所はセイバンモロコシの繁茂が非常に激しく異常でしたので、いち早く対応を行いました。特に芽出しの様子がわからないオオバクサフジに注目しております。木津川流域では生育地が限定されています。観察や調査で手が届かないところもあるので、最も早く除草を行いました。調査にご協力いただける皆さんを求めています。

●個別専門会議 17会議の内半数以上で事務局との第1回会議が行われる

今、里山の会が直面している大きな課題は、会員の減少が進み余命数年といわなければならない時期を迎えています。ここをしっかりと克服するには従来の取組だけでは限界があるのは明白です。現在最も必要なことは減少傾向を食い止めて、大きく成長し、仲間の輪を大きくする方向に切り替わらなければなりません。会誌を年2回発行して、会員とのつながりを維持しております。このまま同じ取り組みの継続では問題があり、限界であると言いつつも改善に手を尽くすことが出来ておらず、一部役員に任せとおけず、すべての会員との対話を行い、つながりを深めながら、声掛けを行う。個別専門会議に取り組むことになりました。初めて電話をかければ話し合えるだろうか、新しい所属について相談できるだろうかとか、いろいろ心配することが深まってきました。こうしたドキドキした気持ちについて、これまで自主的に会費を納入くださっているお人だから率先して電話をかけてくださいよと激励しています。それまでに、私の気持ちを届ける手紙を先に送っていきましょうという人が出てきています。どれもこれも何とか里山の会が存続できて、これまで以上に活躍できる場面が増える気持ちに切り替えてほしいと訴えています。みんなが少しずつ不安を克服しながら里山の会結成25周年を元気に祝う事ができるように頑張っていきましょう、8月の第2回理事会に全会員の様子がわかって、里山の会の前進方向が見つけられたらいいと思います

●竹蛇籠での 春の生き物調べ 26日 9時30分集合

この取り組みのために昨年設置した中聖牛以来、二度目の蛇籠を訪ねて、魚とりに来られるので草を刈りに行った。通路は生い茂っているだろうと予想していたが、誰か分からないけれど、通路の草刈りが出来ていた。ハンマーモアで進む広場までの通路の草が刈り取られていた。容易に広場に行き着くこ

とができたのである。広場は草が激しく茂っている、足元に注意しながら刈り進むと、平地であり厳しい傾斜などなかったのだが、今年は地面が大きく荒れて、砂が斜面に溜まって、窪んでいて、難儀することになる。1時間苦闘する。石がもろに出ていてこのままだと機械の刈り取る刃が損傷するので、刈取り高さの調整をする。何とか除草が済んだ。蛇籠を見ると左岸の三基の蛇籠の頭部に乗せておいた蛇籠は三基ともなくなっていた。底にこの2本は止め杭が効いているのか、姿を見ることが出来ていた。そしていずれも水に深く沈んでいました。これの復旧はなかなか難しそうです。先頭部分は水中にあるので、復旧作業委は難しそうである。正確に渇水期を狙って、水位低下がないと我々では困難が予想されるようである。それほどでもないが、水深は深く、流速も速く、子供たちの生き物調査には、危険が予想されるので、右岸の蛇籠を調査するのが妥当と思われる、水曜日と目木曜日の降水が予想されるので、26日の生き物調査は右岸が適当と思われる。25日(金)に現地下調べも実施し安全確認をする予定である。